

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	FLOW郡山		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 10日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2026年 2月 10日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所全体でご利用者の情報を丁寧に共有し、支援方針や関わり方を統一していること。そのため、どの職員が担当しても、支援の質や療育の方向性がぶれることなく、一貫した関わりを提供できる体制を整えていること。	ミーティングで小さな変化まで共有し、支援のポイントを具体的に言語化している。 また、個別支援計画をもとに声かけや対応方法を明確にし、記録と振り返りを徹底することで、どの職員が対応しても一貫した質の高い療育を提供できる体制を整えている。	定期的なケース検討会を実施し、多角的な視点から支援方法を再評価する。 外部研修を通して、専門性の向上を継続する。 保護者様とのフィードバック機会を増やし、家庭での様子も含めた一体的な支援につなげる。
2	療育内容をあらかじめ固定するのではなく、お子様のその日の様子や体調、興味関心、ニーズを丁寧にしながら活動を組み立てていること。状況に応じて柔軟に内容を調整することで、お子様が無理なく取り組める環境を大切にしており、その時に最も効果的な支援を提供できること。	活動前にお子様の表情や身体の動き、集中の様子などを観察し、その日の状態を把握した上で活動内容を組み立てている。 また、複数の活動案や難易度を準備しておくことで、その時の興味や様子に合わせて柔軟に切り替えられるよう工夫している。	職員間でさらに共有することで、その子に合った活動の引き出しを増やしていく。 また、発達段階や支援目的を踏まえた活動のバリエーションを増やし、より効果的で継続性のある療育につなげていく。
3	小学校生活をより楽しみながら過ごせるよう、小集団での活動を通して、小学校生活に必要なスキルを段階的に身につけられる支援を行っていること。集団の中でのルール理解や順番を待つ力、周囲を見ながら行動する力などを実践的に経験を提供できること。	小学校で求められる場面を想定し、順番を待つ・話を聞く・友達と協力するなどの経験ができる活動を小集団で取り入れている。 また、お子様一人ひとりの発達段階に合わせて役割や課題の難易度を調整し、無理なく成功体験を積み重ねられるよう工夫している。	学校生活に近い活動場面を取り入れながら、小集団の中で実践的に経験できる機会を増やしている。 また、お子様一人ひとりの課題や成長に合わせて活動内容を見直し、より就学後の生活につながる支援となるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学校との併用がご利用時間帯に制限があるため、ご希望の時間に添えない場合があること。また、小学校との併用においては送迎時間や活動時間の関係で調整が必要となり、ご利用が難しいケースもあること。	時間帯や利用枠に限りがあることに加え、小学校の帰宅時間や送迎時間との調整が必要となるため、スケジュールが合わない場合があることが要因として挙げられる。また、安全面や療育時間の確保を考慮した運営体制であることも影響している。	小学校の帰宅時間やご家庭の状況をできる限り把握し、利用時間の調整や空き枠の案内を行うなど柔軟な対応に努めていく。 また、限られた時間の中でも効果的な療育が提供できるよう、活動内容の工夫や職員間での情報共有を行い、利用しやすい体制づくりを進めていく。
2	事業所が2階にあるため、ご利用の際には階段をご利用いただく必要があり、身体面や状況によっては負担となる場合があること。	建物の構造上、事業所が2階に位置しておりエレベーター等の設備がないため、移動の際に階段を利用していただく必要があることが要因となっている。	ご利用時の負担を少しでも軽減できるよう、職員による見守りや必要に応じたサポートを行い、安全に階段をご利用いただけるよう配慮していく。 また、今後も安全面に配慮した環境整備や支援方法の工夫を行い、安心してご利用いただける体制づくりに努めていく。
3	安全面に配慮してマットを設置していますが、部屋の構造や活動内容によっては、壁や床に十分に敷ききれていない部分が生じることがあり、状況によってはリスクとなる可能性があること。	部屋の形状や設備の配置、活動内容によるスペースの確保などの影響により、マットをすべての壁面や床面まで十分に敷き詰めることが難しい場合があることが要因となっている。	活動内容に応じてマットの配置を見直し、危険性が高い場所を優先して保護するよう工夫していく。 また、活動スペースの使い方を調整するとともに、職員による見守りや声かけを行い、安全に配慮した環境づくりに努めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	FLOW郡山
------	--------

公表日 2026年3月31日

利用児童数 47

回収数 37

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	35	2			こちらも直前に到着するよう気をつけてはいますが、待機場所が廊下であり、暑さ寒さが変わらないのが気になります。	この度はご配慮いただきありがとうございます。活動が円滑に開始できるよう、時間通りのご入室をお願いしております。恐れ入りますが、早く到着された場合にはお車でお待ちいただくなど、ご協力をいただけますと幸いです。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	33	3	1			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27	7	1	2	エレベーター等ないので、階段昇降が難しいお子さんがおられた場合、バリアフリーとは言いにくいかと思います。	ご意見ありがとうございます。必要に応じてスタッフが介助に向かいますので、気軽に声がけください。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	4			建物が古いためか、カビのような臭いがする場合があります。	ご不便おかけして申し訳ございません。換気の徹底や管理人とも話し合い、環境整備をしております。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	34	3			支援の先生が、ほぼ毎回変わっているの、統一されているのか、分からない。	スタッフ体制に関するご意見いただき、ありがとうございます。当事業所では、特定のスタッフだけでなく「スタッフ全員でお子さんを育む」という方針のもと日々の活動のサポートをしています。これまで以上に職員間で引継ぎ等をおこない、連携を深めていきたいと思っております。何か不安を感じられることがありましたらいつでもお声がけください。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	2		1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	37					
	8 放課後等デイサービスには、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	35	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34	2		1	よく計画して頂いて計画プランを教えてくださいまして有難いです	引き続きプログラム内容を、それぞれのお子さまに応じたプログラムの検討を行ってまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	35	2		1	毎回違う内容で、子ども楽しんでます	引き続きプログラム内容を、それぞれのお子さまに応じたプログラムの検討を行ってまいります。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	7	12			
保護	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	34	3		8		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	34	2				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25	7	1			
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	33	2		1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	30	7		4	療育とフィードバックの時間が限られていることもあり、先生方とお話できる機会は少ないかなと思います。	限られた時間の中ですが、分かりやすくお伝えできるように努めていきます。別途加算を取る形で、時間を取って対応することも可能ですので、必要に応じてお声がけください。

者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	37			2		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	9	5			
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	30	3				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	34	2		9		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	31	2		4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	29	3	1	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	3		10	避難訓練を実施した等、LINEや待合室で様子を教えて頂いてありがとうございます。今後もホームページや公式LINE、事業所内にも掲示していきますので、ぜひご覧ください。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	35	1		1	LINEでの連絡やお知らせを載せていただいております。今後もホームページや公式LINE、事業所内にも掲示していきますので、ぜひご覧ください。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	2		5		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	35	2				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	33	3		1	毎回楽しく通所しています。お子さまに合わせたプログラムを用意して、お待ちしております。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	35	2			支援には満足していますが、4月からOTの対応ではなくなるかもしれない、と聞きました。一対一で専門性の高い支援を受けられるためFLOWを申し込んだ経緯がありますので、残念に思います。本人なりに成長し、先生方にたくさん可愛がっていただきました。あっという間に卒業となりました。子どもは今でも「FLOW行きたいね」と言っています。家庭のこともあり、本人の寂しさや不安を受け止めてくださりありがとうございます。ご意見ありがとうございます。FLOWでは、職種に関わらず全職員が感覚統合理論を基盤とした視点でお子さまのアセスメントを行っております。一人の視点だけで判断するのではなく、事業所全体で情報を共有し、多角的に捉えることで、より適切で一貫性のある支援につなげて行きたいと思います。今後もチームで連携しながら、お子さま一人ひとりに合わせた多方面からの支援を行えるよう努めていきたいと思っています。何かご不明な点やご心配な点がございましたら、いつでもお気軽にお声掛けください。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		FLOW郡山				公表日	2026年3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		集団においては子ども4人に2人のスタッフがつかうように工夫している。	必要に応じて安全に療育を実施できるように努めてまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		入口の階段が急ななので、必要に応じてスタッフが対応している。	建物の構造上難しいこともありますが、スタッフが必要に応じて介助に行くよう努めること	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		療育後に職員同士で活動の振り返りを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		事業所内ミーティングを実施して、情報共有を行っている。	ミーティングを定期的に行えるよう調整していく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	社内の別事業所職員による評価や社内監査を行っているが第三者による外部評価は受けていない	別事業所の職員による評価・監査をとり入れていく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		社内研修に参加している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		個々のニーズに合わせたプログラムを作成している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		スタッフとチームで子どもを見ている。	社内外の様々な研修に積極的に参加して社内で共有していく	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				
	16	放課後等デイサービス計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		集団のプログラムにおいては作業療法士と保育士で計画を立案をしている。	様々な専門職で視点の違いを共有していく	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		色々な視点でプログラム内容を計画している。	チームとして支援をしていく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		8			
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			8		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			8			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			毎回の振り返りの時間に日常生活の様子の聞き取りをしている		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8					
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8					
	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8					

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8	父母の会はありませんが、イベント等を企画し交流の場を設けています。	平日の開催に関しては参加者を集めることが難しいことがある
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		インスタグラムを毎週更新している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		定期的に訓練や月間の目標を立てて実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		終礼時にヒヤリハットの共有をしている。	ヒヤリハットから起こりうる事故の予測など
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		毎月委員会による振り返りを行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		委員会による身体拘束についての振り返りを毎月行っている	